
友の会通信

洋学の歴史を楽しく学ぶ
津山洋学資料館友の会

2021 June No.7



〈思い出の写真〉多磨霊園 宇田川家三代墓所の改葬（3～4ページに関連記事）
皆の視線の先で、まさにこれから墓所の改葬が始まろうとしています。
写真中央は当時（昭和63年）の下山顧問です。

CONTENTS

令和3年度総会

・創立40周年記念事業について 2

植栽ボランティア活動を実施しました！

薬草の小径から ⑤

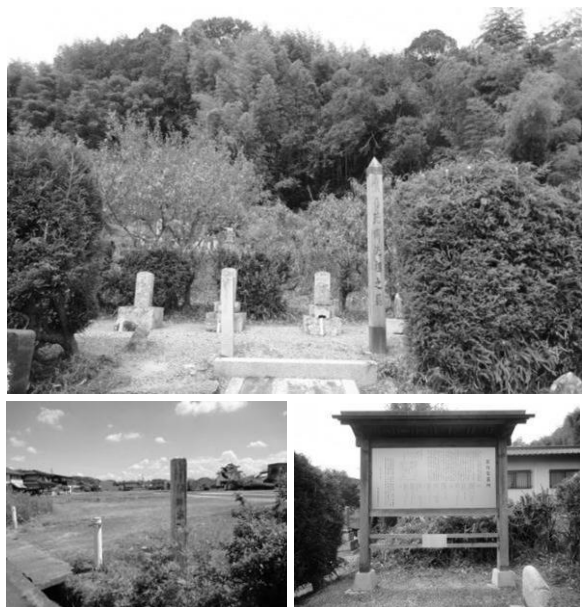
友の会のあゆみ ③ 3・4

編集後記

令和3年度総会・友の会創立40周年記念事業について

新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年度に引き続いて、今年度も総会の開催は中止にしました。代わりに書面で会員の皆さんに審議いただき、令和2年度の事業および決算報告、令和3年度の事業計画・予算案・役員改選について、提案通り承認されました。

今年度は、友の会創立40周年という記念の年にあたり、下記の記念事業を計画しています。今後の感染状況を注視しながら、事業を進めていきます。会員の皆さまへは随時ご案内や「友の会通信」などで進捗状況をお知らせいたしますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。



← 箕作家墓所 標柱（左下）と解説板（右下）

創立40周年記念事業

・記念誌刊行

友の会のあゆみをまとめた記念誌を刊行します。令和4年3月刊行予定です。

・箕作家墓所整備事業

津山市林田にある箕作家墓所には、阮甫の高祖父から両親・兄までのお墓があります。友の会では、平成11年の阮甫生誕200年にあわせて墓所整備事業を実施しましたが、それから20年が経過して案内標柱や解説板の劣化が進んできました。40周年記念事業として、案内標柱や解説板の修繕、墓所入口にある案内標柱の新設を実施します。なお、本事業は津山市文化振興基金の補助を受けて実施します。

・記念講演会

「新館建設への軌跡」

見果てぬ夢を追い続けて」

講師：津山洋学資料館名誉館長

津山洋学資料館友の会顧問 下山純正 先生

岡山日蘭協会監事

日時：令和3年5月15日（土） 延期

・記念祝賀会

・記念研修旅行

5月15日に開催を予定していた記念講演会は無期限で延期としました。祝賀会や記念旅行などとあわせて、開催が可能な状況になりましたら、改めて日程を設定し実施します。

植栽ボランティア活動を実施しました！



4月25日（日）、

集まってくださった会員の皆さんで、薬草の小径の草取りを行いました。マスクを着用して会話も控えて、黙々と作業を進めました。時節柄いたしかたないですね。おかげさまで枯れ草も取り除かれ、すっかりきれいになりました。

平成30（2018）年5月から始めた活動ですが、4年目に入り定着しました。次回の作業日はまたお知らせしますので、ご都合のつく方はご参加をお願いします。

薬草の小径から ⑥



ラベンダー シソ科

地中海沿岸からアルプスを原産とするハーブ。抽出された精油は香水や香料として用いられます。宇田川玄真と榕菴が刊行した西洋の薬学書『遠西医方名物考（えんせいいほうめいぶつこう）』では「刺賢瑛兒（ラーヘンデル）」の名前で紹介され、「日本や中国にはないので、舶来の品を用いること」と書かれています。



下山顧問のお話を聞く小林編集委員と渡部編集委員

2021年 友の会創立40周年 未来に向けて記録に残しておきたい ～あんな出来事・こんな出来事～

友の会のあゆみ ③

「友の会のあゆみ」の第1回（通信第3号掲載）では友の会の発足、第2回（第4号掲載）では再現オランダ料理の会「オランダ料理のタベ」の思い出をお話しいただきました。今回は、友の会が取り組んできた洋学史跡の整備活動のうち、宇田川家三代の墓所移転についてお話を伺いました。

小林編集委員 今回は、洋学資料館創立10周年の頃のお話をお聞きしたいと思います。

渡部編集委員 宇田川家三代の墓所移転は10周年記念事業として行われたんですね？

下山顧問 そうですね。市の文化施設は節目ごとの創立記念式典というものをあまりしないのですが、寄託者の恒久的な寄託をお願いしたいという思いから、10周年の節目に、当時の国際ホテルで寄託者の方々へ市長から感謝状を贈呈する式典を開催しました。その式典後の懇親会で、来賓として出席されていた岡山大学の中山沃先生が「東京の多磨霊園にある宇田川家三代の墓所の管理が難しくなっているとご後裔から伺ったが、墓石を津山市に移したらどうか」と提案をされました。木村岩治先生も「墓所の移転は意義のあること。検討してみようではないか」と仰って、その後のことが進んで行くと記憶しています。

小林 墓地を管理される後継者がいないということですか。

下山 いえいえ、ご後裔の小森雅江さんが立派に管理されていましたよ。ただ、小森家に嫁がれた雅江さんがご高齢になって、宇田川家

墓所の行く末を案じておられたのですね。津山市は、箕作家旧宅を国指定史跡として整備し、津山洋学資料館を開館させた。市はそれだけ洋学に力を入れていたので、から、多磨霊園にある宇田川家三代の墓所が、後裔が絶えて管理ができなくなると、都によって墓石は碎石処理されると聞けば、これは何とかしなくてはならないと奮い立ったわけです。

渡部 東京から津山へ墓所を移転するとは、どのように実行されたのでしょうか？

下山 最初は市の事業として進めようとしたのですが、昭和天皇が崩御され、大喪の礼が執り行われた様子を見て、故人の墓を公費で改葬することは「政教分離の法」に抵触するのではないかという考えが出てきて、それならば自分たちでやろうということになりました。友の会を核にして、「宇田川家三代顕彰実行委員会」という組織を作り、改葬に向けて動くことになりました。会長を中島堅吉先生にお願いして73人で旗揚げし、大変な苦勞をして寄付金を集め、東京へ出向くことになったのです。宇田川家三代の墓を発掘し、収集した遺骨を東京大学へ持ち込んで鑑定

してもらいました。津山市西寺町の泰安寺墓地の一郭を新たな改葬場所として、納骨して開眼法要を執り行いました。さらに記念講演会を開催し、記念誌を作成してご寄付をいただいた方々に配布しましたよ。

小林 発掘はどこに頼まれたのですか？

下山 宇田川家のお寺のご山主に御霊抜きをお願いした後、津山から出向いた鞍懸石材店の職人さんに改葬していただきました。墓石は梱包され、トラックで津山に移送しました。

渡部 墓所に泰安寺が選ばれた理由は何？

下山 泰安寺は松平家の墓所でしたからね。タイミング良く墓地の中央に空いた区画があって、広さもベストだったのです。それから宇田川興齋が幕末から明治5年にかけて、江戸から転居して国元津山に居住していたことがあります。その時お梶という女性と結婚して、轍四郎という子が産まれたのですが、産後の肥立ちが悪く二人とも亡くなっています。泰安寺にはその二人のお墓があった。というのも理由の一つですね。

渡部 発掘して分かったことを教え

てください。

下山 宇田川榕菴の墓は、医史学の大家の小川鼎三先生や、科学史の大家の道家達将先生らが調査のため一度発掘したことがあり、遺骨があるのは分かっています。

玄随の遺骨はバラバラで出土しました。顎骨が出てきた時、私は感激して、思わず墓穴に飛び込んで顎骨に頬ずりしてしまいましたね。玄真の遺骨は出てきませんでした。小さな素焼きの植木鉢のような器が一個だけ出てきました。

渡部 東京大学に遺骨の鑑定を依頼したということですが、どういうことですか？

下山 発掘前に、東京大学に事情を話して遺骨の鑑定を依頼したのですが、最初は断られてしまいました。東大には、蘭学者としては土生玄碩の遺骨しか収集されていなかったことを知っていましたので、宇田川玄随と榕菴の遺骨の一部を東大に寄贈することを提案し、遺骨鑑定の権威 鈴木尚先生に鑑定してもらえらることになったのです。その報告書は、『洋学研究誌』『一滴』創刊号で掲載しています。多磨霊園は関東ローム層ですから水が地中に染み込みにくいいため、遺骨も残っていたと思いますね。そうい

うことで、遺骨の一部を東京大学に寄贈し、その後遺骨は骨壺に納められて津山に届けられました。

渡部 宇田川家のお墓が多磨霊園にあったというのがちよつと不思議なのですか？

下山 元々、宇田川家の墓は浅草誓願寺塔頭の長安院にあったのですが、大正時代の関東大震災によって多くの寺が焼けたり墓が崩れたりしたので、そこで大八車で多磨霊園に運んだからです。その際、墓石の一番下の重たい石が運べなくて、二段目とその上の墓石だけが運ばれたのです。泰安寺でご覧になったらお分かりですが、お墓が堂々としているのに高さがない感じがするのはそのためです。地震で墓石が倒れたことで、墓石が割れたり、ヒビが入った箇所もありましたが、改葬の際に修復しました。

小林 なぜ多磨霊園なのか、謎が解きました。

渡部 宇田川家三代の墓所移転事業を通して感じたことを教えてください。

下山 宇田川家三代の墓石を津山市に改葬できた意義はとても大きなことで一大事業でしたね。三代の

墓の横に、宇田川興齋の津山での妻お梶さんと轍四郎と一緒に祀らうと三代の側へ墓を移して並べました。でも私がお梶さんでしたら、血の繋がりのない宇田川家三代の横に移されたのは何か落ち着かない気がしましたね。そのことを木村先生に話したら先生は笑っておられました。

小林 ありがとうございます。ちなみに玄随の号は槐園といつて槐。玄真の号は榛齋で榛。榕菴の榕は榕樹といつてガジュマルの意味があるそうです。資料館の中庭に槐と榛の木が植えてあります。ぜひご覧になって、宇田川家三代墓所移転事業のことを思い出して欲しいですね。それでは、今回はここまで。次回もお楽しみに。



泰安寺で行なわれた宇田川家三代墓所の開眼法要

編集後記

新型コロナウイルスの第四波が県内でも猛威を振るい始め、とうとう岡山県に緊急事態宣言が発令されました。ワクチンの高齢者接種も始まりましたが、実際に完了するまでには時間がかかるようです。

昨年度に引き続き、総会の開催が中止となりました。友の会創立40周年という記念の年を迎えましたが、記念の諸事業も延期せざるを得ません。「友の会」の活動が自由にできませんが、状況を見ながらできることを進めていきたいと思えます。

先覚者の尽力により天然痘は撲滅されました。コロナとの戦いはまだ続きますが、必ずコロナ禍が収束する 때가 来ます。感染から身を守りながら、健康第一に暮らしていきましょう。

(A)

津山洋学資料館友の会通信 第7号

令和3年6月
編集・発行

津山洋学資料館友の会
事務局 〒708-0833
津山市西新町5

津山洋学資料館内
☎0868-23-3324